

きぶのたつと

NO.84 月刊

昭和四十年六月一日 発行 (非売品)
岡山県都窪郡吉備町東町一五字垣方 呼應四三七番
吉備親老協会

○岩月家系譜 (板倉氏家臣) (第七編人物篇岩月白華参照)

岩月氏の遠祖は源氏の裔流にして、上野國の住人新田氏の出である。始め岩松氏を稱した如数代の後ち岩松清賢なるものが没落して、母方の岩月十郎北條氏房をたよつて氏房の元に當る北條左京大夫の政の幕下となり、武藏國岩月城(岩槻)を預つた。天正八年七月豊臣、徳川の連合軍が小田原攻めの戦いに宇喜多秀家の攻撃軍と戦つて敗北して民間に走つた。清賢の四代後ちの清俊になつて上野國沼田城主奥田氏に仕えた。この時姓を富沢氏に改めた。此の子清則になつて奥田氏は徳川家康に叛いて家名は断絶したので清則は浪人の身となり諸國を浪流した。その子清直は寛文七年二月九日鳥山城主(下野國)板倉重矩に召されて仕官した。元禄九年に旧姓岩月氏に復し、政めて板倉越中守重高の族に封せられたので扈從してきた家柄である。

清知源氏 孝國上州新田之一族岩松也某八代之裔流 天正之頃稱富沢氏元禄年中改岩月
李姓岩松氏 (妻大系國二有リ)
清賢 岩松伯耆守上野國安積郡之内領足利一流之時没落 母方北條左京大夫幕下 岩月十郎 平山房小田原陣宇喜多秀家責口圍 宇喜多對陣 武州岩月城主也 法名 岩泉院殿前伯州刺史松徳了清大居士 北不詳

清國 外記 雅樂頭 法名 報恩院殿叟月了空居士 北不詳

清幸 雅樂頭 法名 長遠院兵了円居士 瓦石詳

清後 富沢半弥 上州沼田城主奥田河内守禪正少弼二仕へ領千石 上州山上之龍源寺
= 華ル 寛永十一甲戌年卒 法名 蓮樂院理詠了順居士

清則 後々清正ト改ム 同シク奥田氏ニ仕へ采地八百石 領主奥田氏將軍家(徳川氏)ニ北背キ高命罪ニ寄リ連坐シテ家名断絶 其時浪人シ同所ニ住シ致仕之後没ス 龍源寺ニ葬ル 法名 了覚院壽岩宗勝居士 慶安二庚寅年十二月廿三日卒
宣 某 法名 青屋利山大姉 武州鮫ヶ橋ノ龍谷寺ニ石塔アリ

清直 初富沢五郎左衛門後々改テ岩月武左衛門 若年、初板倉内膳正重矩公奉仕賜百石 伯耆守重良公御中守重相公越中守重高公四君ニ奉仕ス 庭殿即代取也 寛文七丁卯年二月九日没石出 元禄十七甲申年三月七日六十四歳ニ病死ス 備中國平野村清水山松林寺ニ葬ル 法名 内明院月粲了岩居士(墓石には了岩と有為トナリ) 宣 某 祖室妙諦大姉 享保六年五月十八日卒
(松林寺位牌之内ニ軸アリ了岩功勞ヲ稱ス者、卷也、松林寺中興高岸自格之筆也(岩月氏為)

女子 富 庭殿藩家中奉多善五左衛門宣 法名 心通妙安大姉 龍谷寺ニ葬ル
八弥 早生 法名 貴勝同進居士 江戸淨草寺町吉祥寺ニ葬ル
市弥 早生 法名 華鮮了曇居士 武州 龍谷寺ニ葬ル
清急 九之進 母ハ遠山氏ノ家ニ成頼氏
幼名故十郎、後々直騎(要人とも稱した)大藩公重宣から九之進を賜つた)
元禄十七年家督相續百石ヲ賜フ重高公、昌信公勝興公三君ニ奉仕ス元文四年八月十七日卒 行年五十四歳 法名 洞理院徹了悟居士 清水山松林寺ニ葬ル 生國武州忍之郡湯島天神下池端ニ誕生、産神神田大明神 湯島天神兩社也
宣 元 同家中坂井治郎右衛門昌隆ノ女、正徳六丙申年二月八日卒 法名 花頼智香大姉
后宣 添 足守藩家中有松吉兵衛正幸ノ女 宝曆九年十一月十二日卒 行年五十八歳 法名 實際院慶屋了性大姉
備中國新見三氏ニ新見禪宗曾洞宗湯元寺ニ奉仕ス大藩遺臣八松林寺ニ葬ル
後々重宣公より重字ヲ拝領シ重上云フ同家中知田権大夫ノ宣、昌信公御ニ女於苗代居、御宇ニ出ル(重宣公後々ニ昌信ト改ム)

清雄

市九郎、武右衛門 母、水下氏家士有松吉兵衛正幸、女
安永四年四月廿七日卒 行年五十五歳 法名杏々亭不鏡清雄居士
元文四年十九歳、布家督相續宗地、二十歳、大匠御加番、二十五歳、大鑑察、勤
二十九歳、寺社職、明知二年七月御用人、從、
生國備中賀夜郎庭、誕生、産神同國、西花鹿村、八橋宮也
三治郎 早世 法名 保現孝童子 享保九年十月六日卒 松林寺、葬、
女 備中新見藩主内氏の家臣 原田要人正興、室

清家

多門 備中國上房郡瀨村柳井勘右衛門重次、男、柳井考六重春、明和八年卯年
五月十四日岩月家、養子、同年十月廿二日武人扶持、寛政元年四月十一日此
習日附代、上、寛政四年十一月一日死 法名 修心院澤岩宗林居士
母、同家中佐野朝吉、妹
曾忠 室曆三癸酉年八月廿三日卒 行年八歳 法名 淡海一泡童子 墓所 松林寺
其女 養子岩月多門清家、室 法名 放光院三慈慧密大姉 文政三庚辰年八月廿一日
安永三年八月廿四日卒 行年十九歳 卒 墓所 松林寺
法名 玉室智珠信女 墓所 松林寺

良直

傳右衛門 号、白草堂 備中國高松茶房家の家士、小島治右衛門安興、男、寛政四
年十一月岩月家、養子、宗地五指石武人扶持、表給人、上、文政七年二
月廿五日病氣、隱居、草堂、改、剃髮、禪、好、年々杖ヲ吉野、浪、速、尾、張、
伊勢、美濃、播磨、國々名勝、古蹟ヲ探リ、老ヲ養フ歌ハ香川景樹、内人ニシテ、
藤井高尚、玄如法師、交遊、天保九年八月十三日卒 行年七十三歳 墓所 松林寺
室 菊 同家中山直右衛門、女、嘉永六年五月廿五日卒
法名 真如院法堂惠性大姉 墓所 松林寺
一註、香川景樹は江戸後期の歌人で、賀茂真淵らの万葉調の歌風に反、対し直感の
を詠調を重んじた。この流派を桂園派と呼べ、主に関西に広く行われた。

清安

武右衛門 初、乙治良 富之助 沢治良 豪之助 郷藏
文化十二年七月五日御雇被召 二人扶持 文政七年二月廿五日家督相續
後十五十石武人扶持、即、行、上、天保十四卯年八月十三日卒三十八歳
法名 寛心院節岩義操居士 墓所 松林寺
室 壽満 同家中藩医 岡西昌順、二女 明治九年八月十九日行年六十七歳
法名 善門院慈宣妙光大姉

愛

同家中保用、武右衛門臣孝、室
初、半弥 板倉攝津守勝全公御、代嘉永五年閏二月一日被召出七人扶持、賜、
束中小姓上席、同六年六月廿八日近習給人御勤、同七年三月十日御参府
之節立、帰御供勤、板倉攝津守勝全公萬延元年三月御参府御供、一年勤番、京都
大匠御使者勤、同二年八月七日、御如番、御供、同月、帰、同十月、指石三人扶持
賜、給、人目附、後、上、文、久、年、間、指、石、武、人、扶、持、賜、元、治、元、子、年、長、州、御、征、伐、援、兵、被、命、
節、特、使、御、使、番、兼、十一月五日御出陣、岩島、滞、陣、毛利、氏、伏、罪、二、付、十二月二十
九日、打、守、陣、講、依、而、翌、元、治、二年正月六日、延、瀬、澤、陣、同、二月九日、御、用、向、急、出、府、
御、用、清、四月廿七日、帰、着、慶、應、三年正月十三日、曰、知、五、拾、石、二人扶持、賜、同、四、辰、
年、主、政、復、右、御、一新、上、諸、侯、勤、王、御、政、作、一、表、藩、制、御、政、事、上、徳、川、氏、御、朱、印、版、
籍、御、奉、還、御、扶、持、其、筋、御、歎、願、仍、而、諸、臣、賜、禄、返、上、御、持、持、府、藩、果、三、治、一、定、上、
殿、標、更、一、庭、職、知、事、御、拜、命、元、高、二、万、石、十、分、一、賜、ハ、ル、御、持、持、此、時、御、直、書、ヲ、以、テ、朝、命、學、
奉、可、仕、旨、奉、御、説、諭、有、之、明、治、二年十一月、諸、士、ハ、士、族、卒、族、二、等、上、リ、藩、費、屬、
上、リ、當、藩、制、一、等、上、士、族、中、常、禄、四、拾、七、俵、賜、鑑、察、方、ト、ル、歳、給、八、俵、ヲ、賜、明、治、三年
五月、再、藩、制、大、変、革、上、密、詔、指、石、ヲ、賜、任、庭、賴、藩、權、大、局、取、掌、名、籍、鑑、察、并、達、官、禄、
指、石、ヲ、賜、同、四年、辛、未、七月、藩、ヲ、廢、上、依、而、知、事、禄、御、免、取、御、家、族、御、同、道、御、帰、
府、同、年、十二月、果、テ、廢、上、更、ニ、備、中、深、津、果、ヲ、置、カ、ル、仍、而、者、未、年、引、諸、事、新、置、果、引、
渡、相、成、上、翌、明、治、五年、三月、引、渡、諸、官、殘、務、
明、治、廿二年、八月、廿一日、卒、行、年、五、十、四、歳、墓、所、松、林、寺、法、名、自、得、院、仁、孝、良、寛、
妻 壽 同家中上原莊右衛門、長女 明、治、三十一年、八月、廿九日、卒、行、年、
五十九歳 墓、所、松、林、寺、法、名、自、照、院、心、鏡、妙、因、大、姉
免吉 早世 弘化四年五月十五日卒 墓、所、松、林、寺、法、名、自、薰、童、子

健(女)

早世 慶應三年九月七日歿
早世 明治五年二月十五日歿

芥太郎及瀨に生る。学校教員を勤む。昭和十八年勲頭に應じて農村新年の歌に詩題の老棠に浴した。おら人もこぞのみのりにちからえて

昭和三十八年一月十一日卒行年七十六歳法名松舟院月堂浄老居士 在松林寺墓
妻 民 吉備郡穂井田村服部三宅熊雄ノ妹
昭和廿一年十一月五日卒行年七十四歳法名覚舟院栴堂浄操大姉

邑雄 早生 明治七年五月十八日卒
叔父上京 操ノ養子となり離縁台大福村(福田村)佐野弥一郎の養子
明治廿九年三月十六日卒 妹尾盛隆寺に葬る。法名清心院智禎日祥居士

清 昭和三十三年十二月廿日卒行年六十三歳
妻 菊子 岡山市ニ番町伊東急三郎の三女
后妻 道子 菊子の妹、明治三十六年一月九日生

隆 在東京
健三郎母は道子以下同腹
俊子 岡山寺番町ニ丁目八、五に住す
日吉子
水子
紀子

波川家畧系 (板倉氏家臣) (一蔭三指寺院墓清水山松林寺参照)
五代藩主板倉勝喜の七男波川様之進勝虎
文久二年二月七日北四十五歳
坪井家畧系 (撫川、戸川氏家臣)
坪井善助
空山貞持信士
文化四年三月十日北
妻 某 天保九年戌年十月十日北

文告 持法院宗意信士
明治七年旧六月三日北
妻 某 法受院妙喜信女
明治廿四年旧九月四日北
英一 淨妙院宗蓮信士
昭和廿六年十二月二十日北
妻 喜志 淨蓮院妙操信女
昭和三年六月廿五日北四十五歳
高松町ニキナリ 某の娘
永馬 養子
文政七年八月廿一日生
全葉県佐倉村士族
松田平兵衛の二男 北不詳
天以 天保三年九月十日生
永馬の妻 北不詳

文告 持法院宗意信士
明治七年旧六月三日北
妻 某 法受院妙喜信女
明治廿四年旧九月四日北
英一 淨妙院宗蓮信士
昭和廿六年十二月二十日北
妻 喜志 淨蓮院妙操信女
昭和三年六月廿五日北四十五歳
高松町ニキナリ 某の娘
永馬 養子
文政七年八月廿一日生
全葉県佐倉村士族
松田平兵衛の二男 北不詳
天以 天保三年九月十日生
永馬の妻 北不詳

文告 持法院宗意信士
明治七年旧六月三日北
妻 某 法受院妙喜信女
明治廿四年旧九月四日北
英一 淨妙院宗蓮信士
昭和廿六年十二月二十日北
妻 喜志 淨蓮院妙操信女
昭和三年六月廿五日北四十五歳
高松町ニキナリ 某の娘
永馬 養子
文政七年八月廿一日生
全葉県佐倉村士族
松田平兵衛の二男 北不詳
天以 天保三年九月十日生
永馬の妻 北不詳

文告 持法院宗意信士
明治七年旧六月三日北
妻 某 法受院妙喜信女
明治廿四年旧九月四日北
英一 淨妙院宗蓮信士
昭和廿六年十二月二十日北
妻 喜志 淨蓮院妙操信女
昭和三年六月廿五日北四十五歳
高松町ニキナリ 某の娘
永馬 養子
文政七年八月廿一日生
全葉県佐倉村士族
松田平兵衛の二男 北不詳
天以 天保三年九月十日生
永馬の妻 北不詳

文告 持法院宗意信士
明治七年旧六月三日北
妻 某 法受院妙喜信女
明治廿四年旧九月四日北
英一 淨妙院宗蓮信士
昭和廿六年十二月二十日北
妻 喜志 淨蓮院妙操信女
昭和三年六月廿五日北四十五歳
高松町ニキナリ 某の娘
永馬 養子
文政七年八月廿一日生
全葉県佐倉村士族
松田平兵衛の二男 北不詳
天以 天保三年九月十日生
永馬の妻 北不詳

文告 持法院宗意信士
明治七年旧六月三日北
妻 某 法受院妙喜信女
明治廿四年旧九月四日北
英一 淨妙院宗蓮信士
昭和廿六年十二月二十日北
妻 喜志 淨蓮院妙操信女
昭和三年六月廿五日北四十五歳
高松町ニキナリ 某の娘
永馬 養子
文政七年八月廿一日生
全葉県佐倉村士族
松田平兵衛の二男 北不詳
天以 天保三年九月十日生
永馬の妻 北不詳

文告 持法院宗意信士
明治七年旧六月三日北
妻 某 法受院妙喜信女
明治廿四年旧九月四日北
英一 淨妙院宗蓮信士
昭和廿六年十二月二十日北
妻 喜志 淨蓮院妙操信女
昭和三年六月廿五日北四十五歳
高松町ニキナリ 某の娘
永馬 養子
文政七年八月廿一日生
全葉県佐倉村士族
松田平兵衛の二男 北不詳
天以 天保三年九月十日生
永馬の妻 北不詳

文告 持法院宗意信士
明治七年旧六月三日北
妻 某 法受院妙喜信女
明治廿四年旧九月四日北
英一 淨妙院宗蓮信士
昭和廿六年十二月二十日北
妻 喜志 淨蓮院妙操信女
昭和三年六月廿五日北四十五歳
高松町ニキナリ 某の娘
永馬 養子
文政七年八月廿一日生
全葉県佐倉村士族
松田平兵衛の二男 北不詳
天以 天保三年九月十日生
永馬の妻 北不詳

文告 持法院宗意信士
明治七年旧六月三日北
妻 某 法受院妙喜信女
明治廿四年旧九月四日北
英一 淨妙院宗蓮信士
昭和廿六年十二月二十日北
妻 喜志 淨蓮院妙操信女
昭和三年六月廿五日北四十五歳
高松町ニキナリ 某の娘
永馬 養子
文政七年八月廿一日生
全葉県佐倉村士族
松田平兵衛の二男 北不詳
天以 天保三年九月十日生
永馬の妻 北不詳

八代家畧系 (板倉氏家臣)
 八代氏の先祖は詳かでないが、もと因幡國鳥取藩主池田氏の家臣であつたが、享保の頃に
 左にかの事情で庭瀬藩主板倉氏に仕官した外縁の家柄である。
 八代忠清
 享保五年十月十日卒 天明七年十月三日卒 文化四年十月廿三日卒 天保七年九月朔日卒

忠光 養子 (撫川戸川氏家臣石黒矢学の三男) — 英雄
 嘉永四年十月廿六日卒 四十六才
 墓所は大塚にある。
 忠安 庭瀬藩に仕ふ
 忠親 文化四年十月廿三日卒 天保七年九月朔日卒
 忠賢 養子 (庭瀬藩士荒木政治の二男) — 英雄
 來明治四年四月廿六日卒 東京に住す

一 信教院道壽日量居士
 元因州鳥取藩八代唯右工門忠清墓
 享保五年十月十日卒
 同藩吉田興惣治遺志津同苗ニテ卒
 去 同人妻也

二 信愛院道源日喜居士
 天明七年十一月三日信名八代唯右
 工門忠安
 信性院妙源日善大姉 (逆修)
 宝曆三癸酉八月五日施立八代友八

三 円心院義友日榮居士
 文化四年卯年十月廿三日 八代友八忠親
 覚心院妙古日意大姉 (姓不詳)
 寛政五癸丑天六月十四日

四 円妙院実秀日道居士 (忠秋)
 天保七丙丑年九月朔日
 本覚院妙照日相大姉
 文政庚寅年七月廿一日 八代忠秋妻

五 信敬院演暢日義信士
 撫川戸川家臣石黒矢学ニ男嘉永
 四年亥年九月十六日享年四十六

六 心淨院妙輝日照大姉
 明治九年十月七日卒唯右工門二女忠登行年三
 十三
 心篤院忠実日若居士
 明治四十四年四月廿六日卒行年七十五才八
 代末忠實四庭瀬藩士荒木伴大走政治ニ男

七 庭瀬町賜本小平六ニ女久我
 皆足院妙作日良大姉
 大正十三年六月七日卒八代英雄妻良子廿
 一才長崎県北高來郡深海村勝良石太郎四女
 (墓名からみて日蓮宗信者である。明治二年
 の板倉家名帳に、外縁中小姓、縁高七石
 三人扶持、八代末祐とある。)

大森家畧系 (板倉氏家臣) — 不明
 大森考右工門季久 (北不詳) — 不明
 妻 某
 忠光院妙照大姉
 安永七年九月某日
 善次郎 養子 明治八年生片宿森直吉の五男
 まさへ 明治九年二月三日生
 同藩士新田田平の三男明治八年一月廿日生
 養子レたが後方誰レシ善次郎と婚す
 甚五郎
 頭本院実勤日善居士
 天保三年十二月某日
 妻 艶
 明治十一年三月十日卒
 私化十二年八月八日生岡山市二日市
 士族福田三平の三女
 貞市 養子
 田中一治の男 (善次郎の甥)
 現在平野に住す

一 謙光院義正日進居士 明治十丙寅年三月十二日卒大森季義墓
 二 仁讓院妙静日隱大姉 明治四十二年十二月七日卒大森 艶行年七十歳
 三 大森善次郎夫婦墓 昭和十六年三月十四日大森菊野五十五才 (善次郎の義妹)
 明治四十五年一月廿五日没大森政江行年三十七才 (妾死) (とある)

墓所は大塚山にある。明治二年板倉家臣帳に御近習中小姓取扱縁高十石三人扶持
 中西家畧系 (板倉氏家臣)
 興四郎右工門 — 政愛 天保十年七月十日生明治廿五年八月九日死
 行年五十四歳
 妻 興志 天保五年六月廿五日生 平野
 村野崎助三郎の女 (野崎石太の伯母)

大郎 明治廿七年九月廿七日死
 以具 明治八年十月廿一日生
 同 廿七年九月廿四日死
 せ以 明治十二年六月十三日生
 北不詳
 貞次郎 明治四年六月四日生
 同 廿五年九月五日死

(明治二年板倉家臣帳
 に外縁中小姓取扱縁
 高八石三人扶持とある)
 富田家畧系 (板倉氏家臣)
 賢次郎 — 林大郎 養子 平野村吉田常白の二男
 明治三年十月十日生同廿九年九月一日笠岡に死す
 松野
 同藩士西村老番の二女
 後方誰レシ

田中家畧系 (板倉氏家臣)
 茂造
 北不詳 (明治二年侍帳に中番三丙三分一人扶持とある)
 深安 郡坪井村掛谷辰右
 妻佐多矢掛所初森伊兵衛の長女天保十三年七月七日生 工門三男明治廿九年九月廿九日京都に死す。三十九才

静 弥 文久二年一月三日生
 同藩士西村老番の二女
 後方誰レシ

静 弥 文久二年一月三日生
 同藩士西村老番の二女
 後方誰レシ

静 弥 文久二年一月三日生
 同藩士西村老番の二女
 後方誰レシ

静 弥 文久二年一月三日生
 同藩士西村老番の二女
 後方誰レシ

静 弥 文久二年一月三日生
 同藩士西村老番の二女
 後方誰レシ

静 弥 文久二年一月三日生
 同藩士西村老番の二女
 後方誰レシ

西野氏畧系 (一) 枝倉氏家臣 (一) 明治二年枝倉家臣帳に御徒士並取坂四兩二人扶持とある。子孫は鹿野本町に住す

西野弥兵衛—登茂治養子
同藩士佐藤友右工門武治 妻某倉敷市淡田町 妻某妹尾所
の二男 森田松太郎之姉 永原寛治の長女
真好 同藩士西田芳英(吾人即)の妹

墓標は大塚山にある。

- 一 心宗親信士 天保十三年三月廿六日 西野弥兵衛墓
- 二 心殿院本室速到信士 昭和十四年十月十九日 没 俗名西野常次郎行年七十八歳
- 三 心蓮院貞室速証信女 (不詳)
- 四 親智院龍祥美徳居士 昭和三十一年一月四日 没 西野鬼美二行年六十六才
- 五 親智院富祥妙徳大姉 (不詳)
- 六 親智院法林明老信士 明治二十八年四月十二日 没 西野登茂治孟明墓
- 七 法林院明実老信女 (不詳)
- 八 西田氏畧系 (一) 枝倉氏家臣
- 九 西田音八郎 妻 同藩士佐藤友治
- 一〇 西田音八郎 妻 同藩士佐藤友治

急太郎—醇平養子 岡山中島に移住す
早島町安原某の二男

一 明治二年枝倉氏家臣帳に組目附格四兩一人扶持とある。

新田氏畧系 (一) 枝倉氏家臣
新田佐右衛門 延平 文孝
乃婦 天保七年八月十日 生 同藩士坪井平七の妻
四平 天保十四年三月十四日 生 明治廿三年二月一日 北 四十七才
妻 千代 天保十年七月十七日 生 天正五年六月七日 北 七十八才
三人 慶應三年二月廿四日 北

一 新 明治元年十月廿日生 同廿一年九月十六日 北 廿一才
二 新 昭和七年二月廿八日 北 六十八才 同藩士大森孝義の養子となり後ち離別す—勤
三 新 明治六年四月十日 生 北 不詳
四 新 陽三郎 神ヤに移住す
五 新 妻 下撫川雅政村の二女
六 新 昭和三十二年十一月廿四日 北 十八才

一 眞性院淨孝義範居士 文政八十四年六月十七日 新田佐治右工門墓

二 仙苑院探屋妙貞大姉 慶應三丙寅年正月廿四日 同人妻

三 明法院堂道惠温居士 嘉永六年正月四日 卒 新田延平温清墓

四 隨法院貞室妙温大姉 明治三年庚午十一月廿九日 (姓不詳)

五 眞明院良賢智温居士 嘉永七年庚午五月廿五日 新田文孝行年三十才

六 穎心院文敬居士 慶應三丙寅年二月廿四日 新田三介墓

七 放光院謙道玄機居士 明治二十二年二月一日 没 俗名新田四平

八 温知院英親還夢居士 明治二十一年九月十六日 没 俗名新田準一即

九 龍老院温實妙貞大姉 大正五年六月七日 没 俗名新田四平 妻千代

一〇 修学院勳道宗勤居士 昭和二年十一月廿四日 没 六高在学中 行年拾八歳 俗名新田 勤

一一 修德院賢道智高居士 昭和十七年二月廿八日 没 四男 新田高雄 行年六十八才

一二 修德院理道智照大姉 (北不詳)

一三 栗原氏畧系 (一) 枝倉氏家臣

一四 栗原松蔵—茂董(すけまさ)養子 (北不詳) —子孫不明 (明治二年家臣帳に在組) 百目一人扶持とある

一五 安政三年一月廿三日 生 同藩士回富善治の二男

一六 妻 加野 鬼島郡山田村岡野浪吉長女 安政三年四月八日生 (北不詳)

一七 矢吹氏畧系 (一) 枝倉氏家臣

一八 矢吹友英 天保十年三月廿日生 (北不詳) 高衛 明治三年十月十四日生 同廿二年四月廿七日 北 早 養女 明治五年十月六日生 一宮村則武定七の長女 (末鬼)

一九 志摩 一宮村則武増三郎の長女 (明治二年枝倉氏家臣帳に組目付格三兩二歩二朱一人扶持とある)

ト七十二葬儀社

吉備町平野・国道筋

番番 44 番番 710
吉備線 吉有

丸中運送

公認 許
遠近に抱さず御用命下(ハ)

吉備局 番番 178 番
吉備町・下撫川